

定期作況報告

(第3号 平成12年7月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

6月下旬：最高気温および最低気温は平年2.0℃、1.2℃高かった。降水量は平年より7mm多く、平年対比139%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より21時間多く、平年対比142%であった。夏日（最高気温25℃以上）は6日間であった。

7月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.3℃、2.8℃高かった。降水量は平年より71mm多く、平年対比438%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より3時間少なく、平年対比94%であった。夏日は6日間であった。

7月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.1℃、2.5℃高かった。降水量は平年より47mm多く、平年対比296%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より18時間少なく、平年対比66%であった。夏日は5日間で、うち1日は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	25.2	23.2	2.0	25.5	24.2	1.3	25.3	25.2	0.1	25.3	24.2	1.1
最低気温(℃)	13.4	12.2	1.2	16.9	14.1	2.8	17.2	14.7	2.5	15.8	13.7	2.1
平均気温(℃)	19.0	17.4	1.6	20.6	18.8	1.8	21.0	19.6	1.4	20.2	18.6	1.6
降水量(mm)	25	18	7	92	21	71	71	24	47	188	63	125
降水日数(日)	2	3	▲1	4	3	1	5	4	1	11	10	1
日照時間(h)	71.7	50.6	21.1	40.3	43.0	▲2.7	34.6	52.7	▲18.1	146.6	146.3	0.3

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作況

1) 水稲： やや良

事由： 幼穂形成期は中苗の「ゆきまる」および「きらら397」が、平年よりそれぞれ5日および4日早く、その他の品種・苗は平年より2日早かった。止葉期は各品種・苗とも平年より3～5日早かった。主稈葉数は平年並～やや多く、特に中苗「きらら397」で平年より0.8枚多かった。㎡当たり茎数は各品種・苗とも平年より11～97本少なく、平年対比89～99%であった。草丈は各品種・苗とも平年より8.2～12.3cm長かった。中苗の㎡当たり茎数が平年より少なかったが、生育進度を勘案し、7月30日の平年値と比較すると107～112%でかなり多く、穂数減には結びつかないと考えられた。

一方、7月中旬には降雨による日照不足およびその後15℃以下の低温が13時間持続した期間があったため、籾の退化および不稔の発生がやや懸念された。

以上より、目下の作況は「やや良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期 (月・日)			止葉期 (月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	6.29	7.03	△4	7.16	7.20	△4
ゆきひかり 中苗	7.03	7.05	△2	7.17	7.22	△5
イシカリ 中苗	6.28	6.30	△2	7.15	7.18	△3
ゆきまる 中苗	6.26	7.01	△5	7.15	7.18	△3
きらら397 成苗	6.28	6.30	△2	7.14	7.17	△3

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。

2) △印は平年に比べて早を示す。

3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm

4) 止葉期：全茎の40～50%に達した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数 (枚)			茎数 (本/m ²)				草 丈 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.9	11.1	0.8	883	969	▲86	91	70.9	62.6	8.3
ゆきひかり 中苗	10.6	10.3	0.3	785	882	▲97	89	71.4	63.2	8.2
イシカリ 中苗	10.4	10.5	▲0.1	753	804	▲51	94	78.5	69.7	8.8
ゆきまる 中苗	11.0	11.1	▲0.1	840	877	▲37	96	78.2	66.5	11.7
きらら397 成苗	11.5	11.1	0.4	930	944	▲14	99	76.7	64.4	12.3

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

2) 秋播小麦 : 平年並

事由: 出穂期はほぼ平年並みで生育は順調であったが、7月3日未明の降雹により、両品種とも大部分の面積が倒伏した。出穂後、気温が平年より高く経過し、「ホクシン」の成熟期は平年より1日早まった。

稈長は平年より4cm長く、穂長はほぼ平年並であった。穂数は、「ホクシン」がほぼ平年並であったが、「タイセツコムギ」は平年より45本/m²多かった。したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の秋播小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	6.14	6.14	0	未	7.22	—
ホクシン	6.8	6.9	△1	7.16	7.17	△1

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	88	85	4	8.9	9.0	▲0.1	577	532	45
ホクシン	91	87	4	8.2	8.5	▲0.3	646	640	6

注1) 「タイセツコムギ」の平年値は、前6か年平均値。

「ホクシン」の平年値は、前5か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし : やや良

事由: 全般に高温に経過したため生育は順調で、草丈は両品種とも平年を上回り、出葉数もほぼ平年並であった。したがって、目下の作況はやや良である。

表5 7月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	238	222	16	16.5	16.5	0.0
P3732	233	210	23	16.6	16.9	▲0.3

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : やや良

事由：全般に高温に経過したため、開花期は両品種とも平年より4日早かった。降水量が多かったため生育が進み、やや徒長気味ではあるものの主茎長、主茎節数、分枝数は何れも平年を上回った。したがって、目下の作況はやや良である。

表6 7月20日の大豆の生育

品種名	開花期 (月日)		
	本年	平年	比較
トヨムスメ	7.13	7.17	△4
トヨコマチ	7.12	7.16	△4

品種名	主茎長 (cm)			主茎節数 (節)			分枝数 (本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
トヨムスメ	56	49	7	10.5	9.8	0.7	6.8	6.4	0.4
トヨコマチ	63	55	8	11.0	10.6	0.4	8.1	6.4	1.7

注1) 平年値は、前6か年の平均値。 2) △は平年より早を示す。

5) 小豆 : やや不良

事由：全般に高温に経過したため開花期は平年より6日～7日早かった。7月3日の降雹による一時的な倒伏と小葉の破れ、加えてその後も土壌が過湿気味に経過したことにより生育は停滞気味で、両品種とも主茎長はほぼ平年並み、本葉数も平年より若干多いものの、分枝数は平年を下回り、全体的な生育量が劣っていた。したがって、目下の作況はやや不良である。

表7 7月20日の小豆の生育

品種名	開花期 (月日)		
	本年	平年	比較
サホロショウズ	7.15	7.21	△6
エリモショウズ	7.16	7.23	△7

品種名	主茎長 (cm)			本葉数 (枚)			分枝数 (本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
サホロショウズ	24	26	▲2	7.7	7.3	0.4	4.3	5.7	▲1.4
エリモショウズ	24	24	0	8.7	7.6	1.1	2.7	5.5	▲2.8

注1) 平年値は、前6か年の平均値。 2) △は平年より早を示す。 ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 萌芽期が早まったことと、その後高温傾向に推移したことから、開花始めは平年より3～4日早まった。7月3日の降雹により倒伏が発生した。その後も高温多雨に推移したため、晩生種の「農林1号」は徒長が目立ち、茎長が平年より20cm長く軟弱な生育となった。一方、早生種の「男爵いも」は徒長が目立たず、平年並みの茎長であった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名	開 花 始 (月日)			茎 長 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	6.24	6.27	△ 3	85	65	20
男爵いも	6.23	6.27	△ 4	44	44	0

注1) 平年値は、平成6年～10年の5か年の平均値。

なお、平年値は株間40cm、本年の値は株間30cmの値

2) △は平年より早を示す。

7) てんさい : 良

事由: 期間を通じて高温多雨に経過したことから、生育は順調に進んだ。すなわち、両品種とも、草丈が2割程度、生葉数および根周が1割程度平年を上回った。

したがって、目下の作況は良である。

表9 7月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	66	54	12	26.8	23.5	3.3	25.7	22.5	3.2
ストーク	63	54	9	24.0	22.0	2.0	25.5	23.5	2.0

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前6か年平均値。

「ストーク」の平年値は、前3か年の平均値。